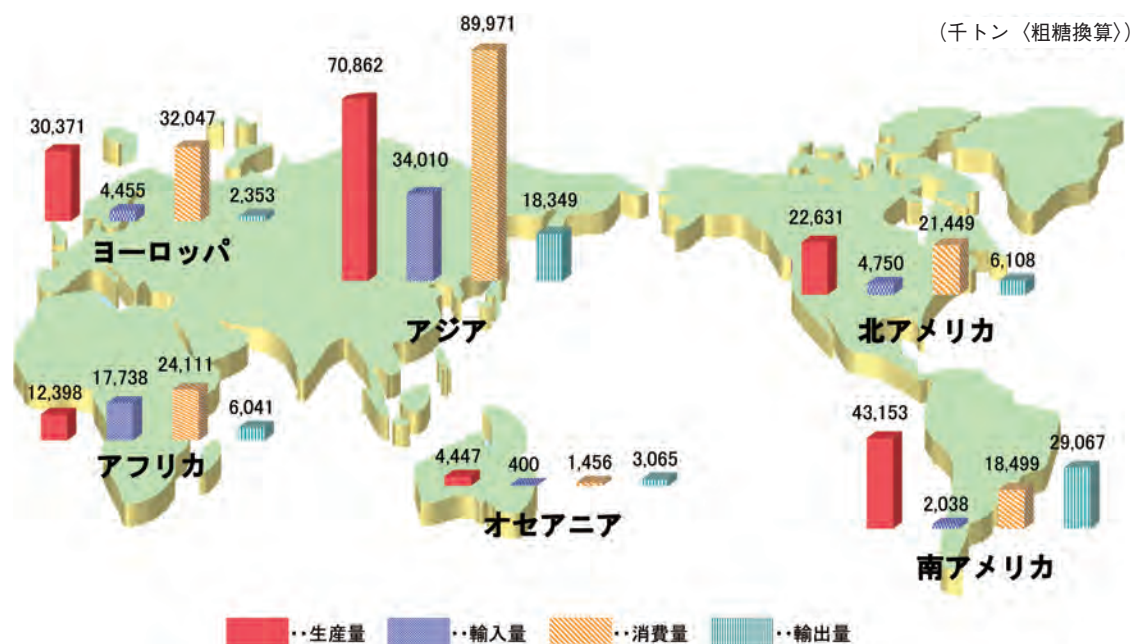


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2021年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2021年12月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2021/22砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8386万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる（表1）。南アメリカでは主産地であるブラジルの生産量減少の影響を受けて前年度を下回るものの、その他の地域では前年度を上回る見通しである。

また砂糖消費量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が依然として継続しているものの、インド、EUやインドネシアなど一部地域での需要回復により、1億8753万トン（同0.9%増）とわずかな増加が見込まれる。

期末在庫率は、期首在庫量が前年度を下回り、消費量が前年度から増加することから、前年度比3.2ポイント減の37.6%と見込まれ、2016/17年度以来初めて40%を下回る見通しである。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,522	65,924	180,618	68,044	81,095	44.9
2018/19	81,095	186,454	61,232	184,261	61,706	82,813	44.9
2019/20	82,813	181,205	69,619	182,327	71,154	80,155	44.0
2020/21	80,155	182,030	67,347	185,895	67,821	75,817	40.8
2021/22 (2021年9月予測)	77,182	183,737	62,827	187,092	64,929	71,725	38.3
2021/22 (2021年12月予測)	75,817	183,862	63,391	187,532	64,983	70,554	37.6

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

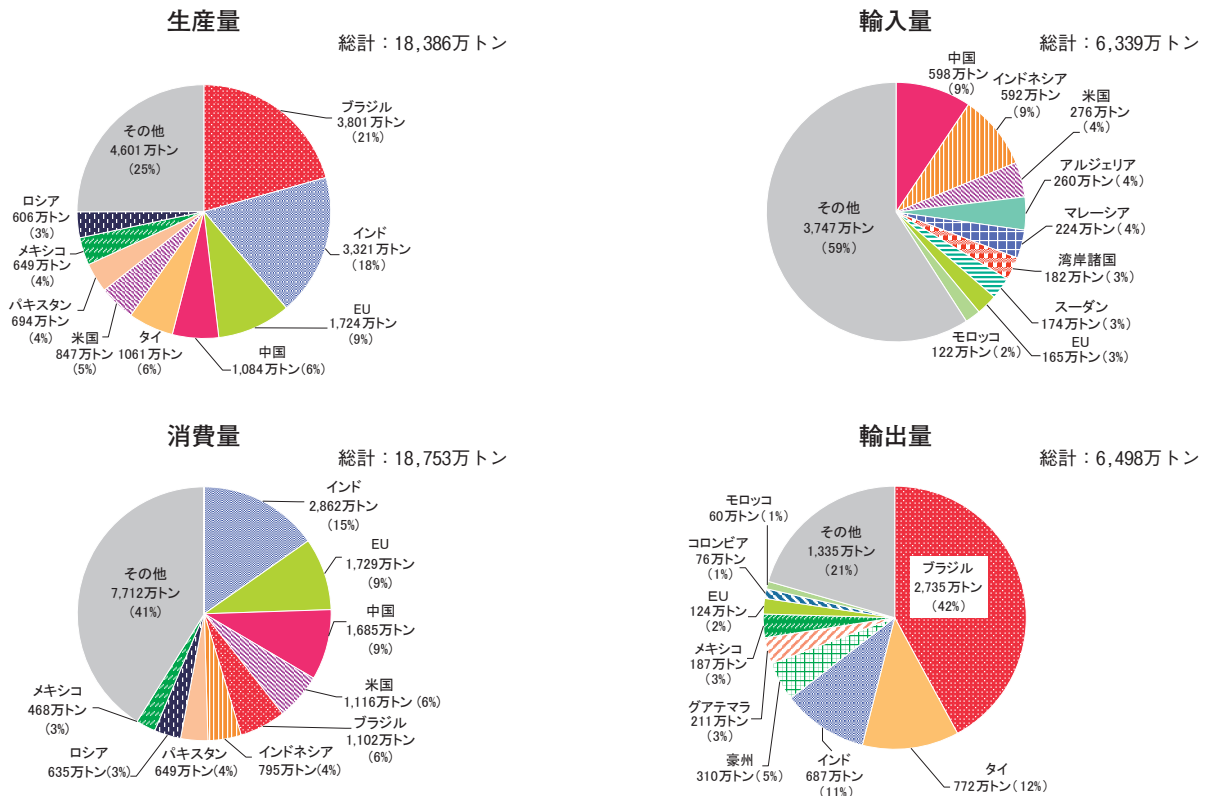
注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2021年12月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2021/22年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2021」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

生産量第1位のブラジルは、干ばつや霜害などの影響を受けて3801万トン（前年度比14.8%減）とかなり大きく減少するものの、世界の砂糖生産量の5分の1強を占めると見込まれる（図2）。

続くインドは、北部で発生した大雨によるサトウキビの品質低下や、エタノールやグル^{（注）}へ仕向けられるサトウキビの増加により、3321万トン（同0.6%減）とわずかに減少し、世界の砂糖生産量の5分の1弱を占めると見込まれる。

また、てん菜糖が主体となるEUにおいては、干ばつを記録した前年と比べて降雨量が多く、大規模な病害虫も発生していないため、1724万トン（同13.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

（注）サトウキビの搾り汁を清浄化した後、オープンパン（釜炊き）で煮詰め、固形状にした含みつ糖。詳細は、『砂糖類・でん粉情報』2020年5月号「インドにおける砂糖の生産動向および余剰在庫解消への取り組み」の「コラム1 インドの伝統的な含みつ糖グル」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002197.html）を参照されたい。

【輸入量】

輸入量第1位の中国では、2021年の砂糖輸入が前年を上回るペースで推移し、国内の在庫の積み増しが想定されることから、598万トン（前年度比27.7%減）と大幅に減少し、世界の砂糖輸入量の1割弱となることが見込まれる。

続くインドネシアは、家庭消費用の砂糖需要の増加に伴い592万トン（同1.3%増）とわずかに増加し、首位の中国と同水準となることが見込まれる。

【消費量】

消費量第1位のインドは、人口の増加や砂糖需要の回復に伴い、2862万トン（前年度比1.1%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の15%を占めると見込まれる。

続くEUは、砂糖需要の回復を受けて1729万トン（同2.3%増）とわずかな増加が見込まれる。

長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は、1685万トン（前年度同）と横ばいで推移し、EUと同水準の消費が見込まれる。

【輸出量】

輸出量第1位のブラジルは、砂糖の減産のほか、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などで同国産の粗糖需要が低下していることから、2735万トン（前年度比19.7%減）と大幅に減少するものの、世界の砂糖輸出の4割強を占めると見込まれる。

続くタイは、サトウキビ生産の回復による砂糖の増産などを背景に、772万トン（同95.4%増）と干ばつの影響を受けた前年度からほぼ倍増すると見込まれるものの、大幅な増産となった2017/18年度や2018/19年度の輸出量（約1000万トン）には届かない状況にある。

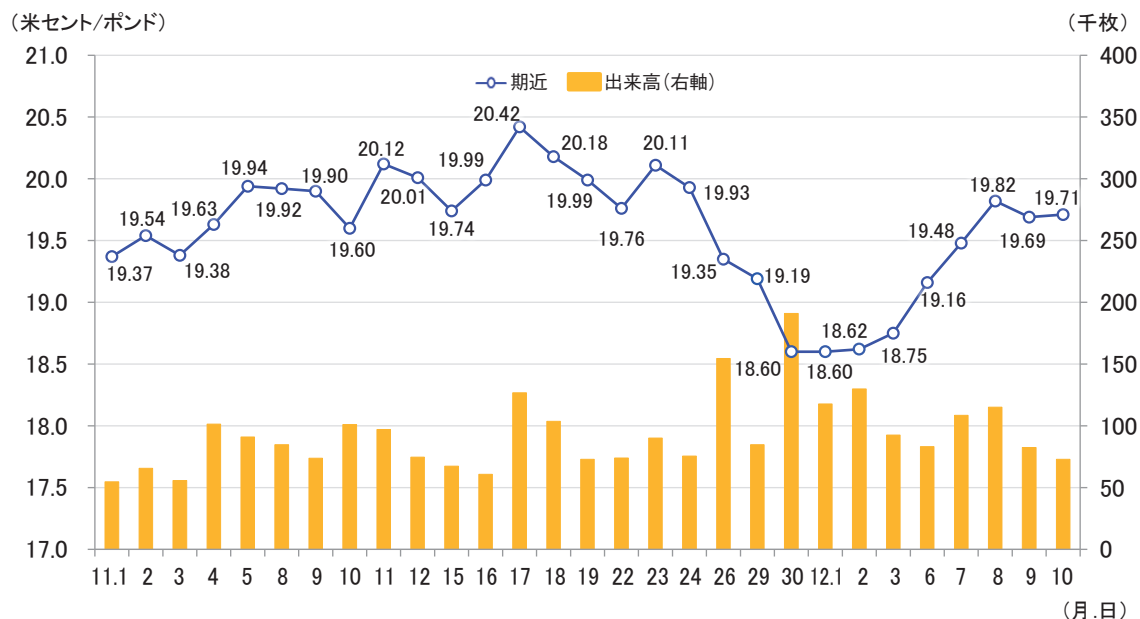
インドは、国際価格の上昇を期待して、国内製糖業者が年度後半の輸出契約を見極めている状況にあることや、海上運賃の高騰による粗糖の輸入量減少を受けて、海外産粗糖を原料とした精製糖の輸出量が減少するとの予測などから、687万トン（同19.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（11/1～12/10）

～11月下旬にかけて下落し一時18セント台を付けるも、再び19セント台まで回復～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年11月の推移を見ると（3月限）、1日は、堅調なブラジルのエタノール価格が上げ要因となり、1ポンド当たり19.37セント^{（注1）}まで値を上げ、2日は、同19.54セントまで続伸した。3日は、原油価格の落ち込み^{（注2）}により反転し、同19.38セントを付けたが、4日以降は上昇に転じ、5日は同19.94セントを付けた。10日は、タイの砂糖輸出量が前年度から大幅に増加するとの見通しや原油価格の下落を受けて、同19.60セントと値を下げた。11日は、オランダの農協系金融機関ラボバンクが2022/23年度のブラジル産サトウキビの不作予測を公表したことや短期的なリアル高^{（注3）}により、同20.12セントと約1カ月ぶりに20セント台に乗せた。15日は、原油価格が先週末の安値を一時下回ったことで、同

19.74セントまで値を下げた。16日は、同19.99セントまで上昇し、17日は、ブラジル産の動向など世界的な砂糖供給量の減少への懸念が広がったことなどから同20.42セントと続伸した。18日以降は国際砂糖機関（ISO）が世界の砂糖供給不足量を前回予測から引き下げたことやリアル安などによって下落が続き、22日は、インドの10月の砂糖輸出量が前年同期を上回ったことを受けて、同19.76セントまで値を下げた。23日は、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）が2021/22年度の砂糖生産量を前回予測から1割弱引き下げたことから、同20.11セントまで回復したものの、24日以降は再び下落に転じ、26日は同19.35セントと急落した。29日は、COVID-19の新たな変異株（オミクロン株）の感染拡大によって国境の閉鎖や移動規制が相

次ぐ中、エタノール燃料需要の減少の可能性から、砂糖増産が思案されたことで同19.19セントまで下落した。30日は、原油価格の下落を受けて同18.60セントまで続落した。

12月2日以降は、原油価格の回復などに伴い上昇を続け、8日はレアル高も加わって同19.82セントを付け、その後は19セント台後半の動きとなった。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイ

オエタノールの需要減少により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2021年12月時点予測)

ブラジル

2021/22年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：877万ha(前年度比0.8%増)

生産量：5億7900万トン(同11.9%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3801万トン(同14.8%減)

輸出量：2735万トン(同19.7%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく減少し、輸出量は大幅に減少する見込み

2021/22年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、877万ヘクタール(前年度比0.8%増)とわずかに増加すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、中南部地域において乾燥気候が継続している上、7月などに霜害も発生したことにより5億7900万トン(同11.9%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖生産量は、サトウキビの減産を受けて3801万トン(同14.8%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産や、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などで同国産の粗糖需要が低下していることから、2735万トン(同19.7%減)と大幅に減少すると見込まれる。

サンパウロ州政府農業研究所、サトウキビの新品種の商業利用を承認

サンパウロ州政府農業研究所(IAC: Instituto Agronômico)は11月23日、3種のサトウキビ新品種の商業利用を承認したと発表した。これらの品種は、単収の向上に加え、機械による植え付けや刈り取りへの適応性^(注)に焦点を当てて開発されたもので、主要な病害への耐性も高いとしている。IACによると、うち2種(IACSP04-6007、IACCTC05-9561)は、初期の成長速度が速く、早期に根元が日陰になることで雑草の生育が抑制されるため、除草剤使用量の削減が期待されている。残りの1種(IACCTC05-2562)は、初期の成長速度は遅いものの葉の量が少なく、葉からの水分蒸発量が少ないとされ、干ばつ発生時においても高い収量が期待されている。なお、これらの新品種は、それぞれの

地域の事情や特徴に合わせて、サンパウロ州、ミナスジェライス州、ゴイアス州、マツグロソ州、マツグロソドスル州、パラナ州の6州での栽培が予定されている。

(注) サトウキビが倒伏せず垂直に伸びることや、茎の太さや高さの均一性を指す。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

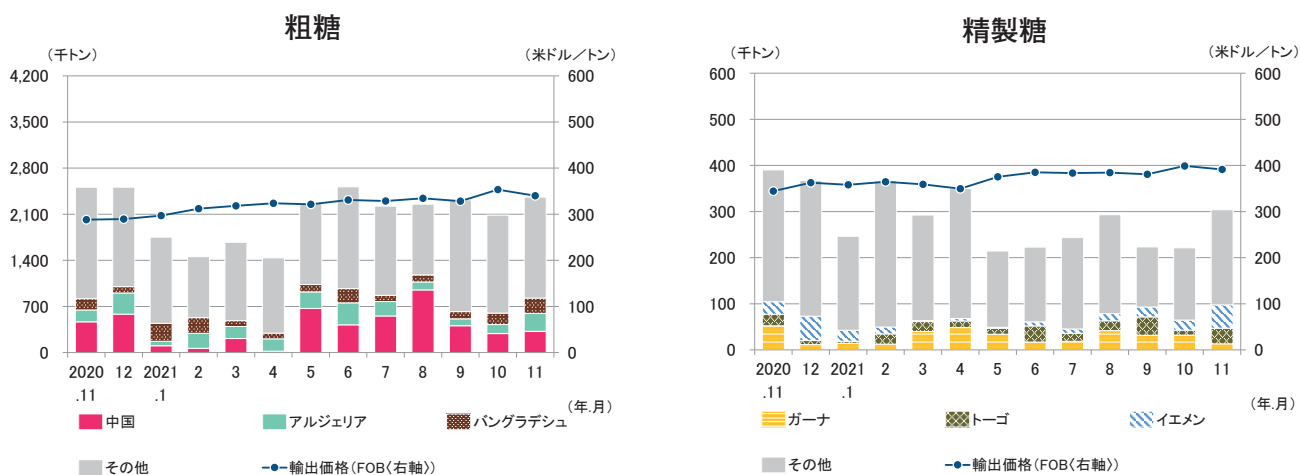
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (11月予測)	2021/22 (12月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,702	8,687	8,767	0.8%
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,162	570,000	579,000	▲11.9%
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,597	37,710	▲14.8%
	輸入量	3	2	2	2	▲16.9%
	消費量	10,635	10,842	10,996	11,021	0.2%
	輸出量	21,017	20,321	34,042	26,730	▲19.7%
	期末在庫量	1,889	2,532	2,093	2,054	▲17.1%
	期末在庫率	6.0	8.1	4.6	5.4	4.5

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：499万ha（前年度比2.0%増）
生産量：4億1063万トン（同2.1%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3321万トン（同0.6%減）
輸出量：687万トン（同19.9%減）

2021/22年度の砂糖生産量はわずかに減少し、輸出量は大幅に減少する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、499万ヘクタール（前年度比2.0%増）とわずかに増加すると見込まれる（表3）。主産地の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億1063万トン（同2.1%増）とわずかな増加が見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した大雨に

よるサトウキビの品質低下や、エタノールやグルの生産に仕向けられるサトウキビの増加により、3321万トン（同0.6%減）とわずかに減少すると見込まれる。輸出量は、国際価格の上昇を期待して、国内製糖業者が年度後半の輸出契約を見極めている状況にあることや、海上運賃の高騰による粗糖の輸入量減少を受けて、海外産粗糖を原料とした精製糖の輸出量が減少するとの予測などから、687万トン（同19.9%減）と大幅な減少が見込まれる。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

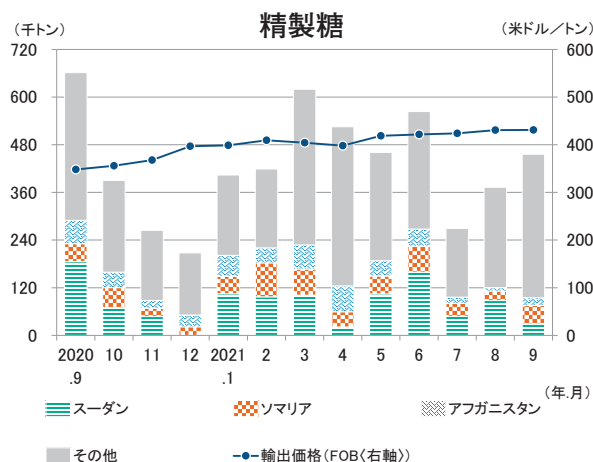
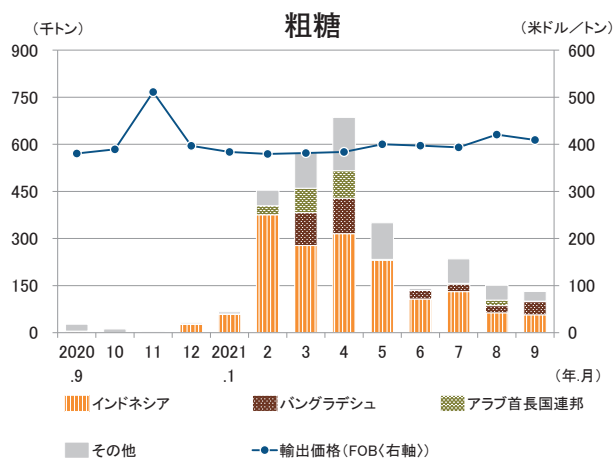
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (11月予測)	2021/22 (12月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,888	5,001	4,985	2.0%
サトウキビ生産量	404,528	369,637	401,983	422,268	410,626	2.1%
砂糖	生産量	35,798	29,437	33,426	34,073	▲0.6%
	輸入量	664	1,687	1,022	270	▲73.6%
	消費量	27,540	27,108	28,296	28,620	1.1%
	輸出量	5,483	8,288	8,582	7,195	▲19.9%
	期末在庫量	14,962	10,690	8,260	6,920	▲24.4%
	期末在庫率	45.3	30.2	22.4	19.3	17.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2021/22年度(10月~翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 112万ha (前年度比3.6%減)

生産量: 7389万トン (同0.4%増)

【てん菜】

収穫面積: 14万ha (同37.8%減)

生産量: 810万トン (同34.6%減)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量: 1084万トン (同6.0%減)

輸入量: 598万トン (同27.7%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度減少し、輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度(10月~翌9月)のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール(前年度比3.6%減)とやや減少が見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の天候が良好であるため、7389万トン(同0.4%増)とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへ転作する農家の増加により^(注)、14万ヘクタール(同37.8%減)と大幅に減少し、てん菜生産量も、810万トン(同34.6%減)と1000万トンを大幅に下回ると見込まれる。

砂糖生産量は、てん菜糖生産量の減少を受けて1084万トン(同6.0%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。輸入量は、2021年の砂糖輸入が前年を上回るペースで推移し、国内の在庫の積み増しが想定されることから、598万トン(同27.7%減)と大幅に減少すると見込まれる。

(注) 同国では、アフリカ豚熱からの回復による豚飼養頭数の増加を受けて、飼料用トウモロコシなどの需要が高まりを見せている。詳細は、2021年6月17日付海外情報「中国農業展望報告(2021-2030)」を公表(飼料編)(中国)(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002967.html)を参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

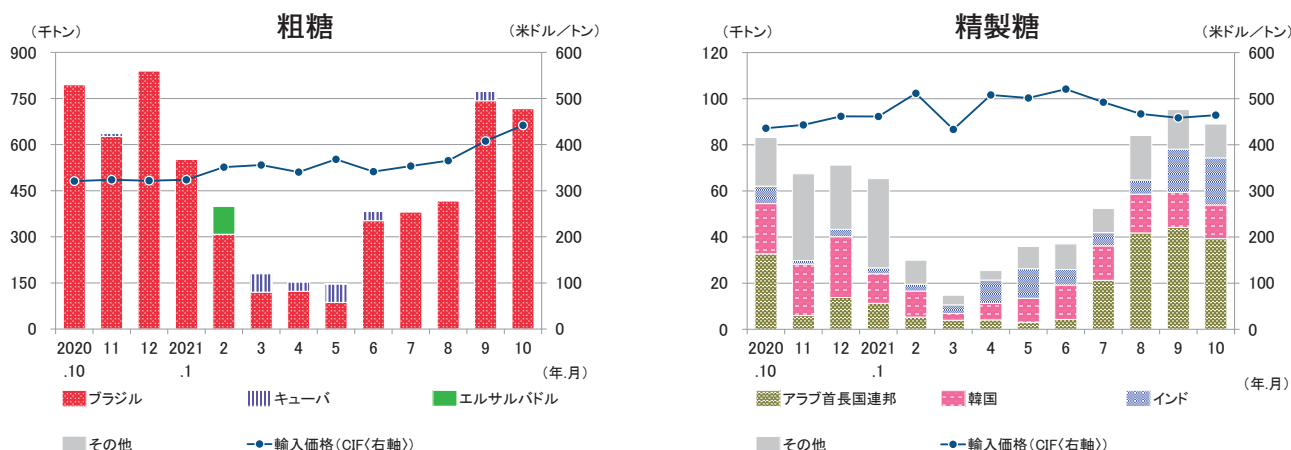
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (11月予測)	2021/22 (12月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,164	1,115	▲3.6%
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	74,748	73,890	0.4%
てん菜収穫面積	243	213	231	169	144	▲37.8%
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	8,831	8,100	▲34.6%
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,942	▲6.0%
	輸入量	5,053	6,587	8,273	5,253	▲27.7%
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	0.0%
	輸出量	210	192	132	176	20.6%
	期末在庫量	11,233	12,473	15,295	14,480	▲1.2%
	期末在庫率	67.1	75.1	90.1	85.1	1.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha(前年度比0.9%減)
生産量：1億981万トン(同11.3%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1724万トン(同13.9%増)
輸出量：124万トン(同1.6%減)

2021/22年度の輸出量は、わずかに減少する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は、146万ヘクタール(前年度比0.9%減)と

わずかな減少が見込まれる(表5)。てん菜生産量は、干ばつの影響を受けた過去2年に比べ、今期は生育期間の降雨量が多く、生育状況が順調であることから、1億981万トン(同11.3%増)とかなり大き

く増加すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の増産を受けて1724万トン（同13.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、EU域内における砂糖需要の回復や現状の在庫水準などを踏まえ、124万トン（同1.6%減）とわずかに減少すると見込まれる。

欧州食品安全機関、ネオニコチノイド系農薬の緊急使用の正当性を容認

欧州食品安全機関（EFSA）は11月18日、2020年および2021年のEU域内におけるてん菜に対するネオニコチノイド系農薬の緊急使用の正当性評価が完了したと発表した。

従来ネオニコチノイド系農薬は、てん菜生産において萎黄病^{いおうびょう}（注1）を媒介するアブラムシの防除に最も有効な薬剤とされていたが、ミツバチなど生態系に悪影響を及ぼす可能性から、EUでは2018年に屋外での使用が禁止されるなど、同農薬の規制強化が進んでいる^{（注2）}。しかしながら、萎黄病の流行する中、同農薬に代わる有効な防除策がないことから、主産国であるフランスをはじめ多くのEU加盟国で同農薬の緊急使用が認められている。このため、欧州委員会は2020年10月、規則（EC）No 1107/2009に基づき、各加盟国における同農薬のてん菜への緊急使用の正当性（他の合理的な手段では阻止することのできない危機的状況によるものであったか）について検証するよう、EFSAに対して要請していた。

今回の評価は、この2カ年の間に11カ国^{（注3）}で緊急使用された4種類のネオニコチノイド系農薬（クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサム、チアクロプリド）計17件を対象としたもので、評価結果としては、代替農薬や他の駆除方法が存在しなかったことや、アブラムシが代替農薬へ耐性を持つ可能性があったことを理由に、全ての緊急使用は正当化されるものであったと結論付けた。

（注1）アブラムシによって媒介されるウイルス性の病気、てん菜の単収減少を引き起こす。

（注2）クロチアニジン、イミダクロプリドおよびチアメトキサムの使用禁止の経緯については、2018年5月18日付け海外情報「欧州委員会、3種類のネオニコチノイド系農薬の屋外での使用禁止を決定（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002218.html）、チアクロプリドの使用禁止の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年6月号「砂糖の国際需給 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向」のEUの項（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002228.html）を参照されたい。

（注3）ベルギー、クロアチア、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、リトアニア、ポーランド、ルーマニア、スロバキア、スペイン。

ドイツ、2022年はネオニコチノイド系農薬の緊急使用が許可されず

11月12日付けの現地報道によると、ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁（BVL）は、ドイツの製糖協会（WVZ）から申請のあった、ネオニコチノイド系農薬によるてん菜種子のコーティング処理について、2022年は緊急事態が見込まれないため許可を行わなかったとしている。ただし、局地的にアブラムシが発生した場合は、同農薬の緊急使用を許可する可能性もあると報じられている。

同国では、2021年に同農薬のてん菜種子への緊急使用が国内約3分の1（約12万7000ヘクタール）の圃場^{ほじょう}で許可されたが、天候が良好だったことから、萎黄病を媒介するアブラムシの発生数が前年より減少していた。

なお、WVZの予測（11月15日時点）によると、2021/22年度（10月～翌9月）の同国のてん菜生産量は約2900万トン（前年度比14.2%増^{（注）}）と見込まれている。

（注）2020/21年度の生産量は、2020年11月16日時点の予測値。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (11月予測)	2021/22 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,599	1,517	1,476	1,462	1,462	▲0.9%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,649	110,326	109,805	11.3%	
砂糖	生産量	17,110	16,972	15,138	17,151	17,243	13.9%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,656	1,654	▲12.4%
	消費量	17,546	17,122	16,895	17,193	17,289	2.3%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,528	1,241	▲1.6%
	期末在庫量	1,700	2,343	1,212	1,346	1,579	30.2%
	期末在庫率	8.5	12.6	6.7	7.2	8.5	1.8ポイント増

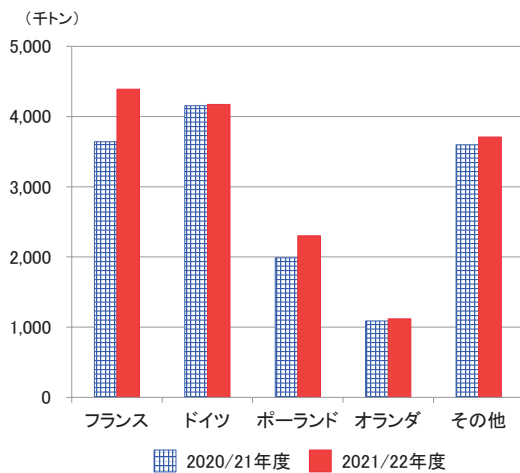
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年9月時点)

EUの砂糖生産見通し

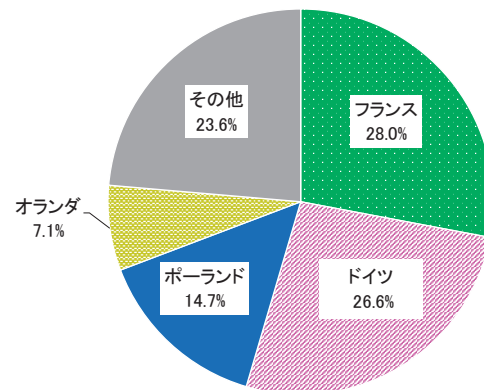


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度は予測値。

国別の生産割合 (2021/22年度)



資料：欧州委員会

5. 日本の主要輸入先国の動向（2021年12月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.2%減）

生産量：3039万トン（同2.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：415万トン（同3.0%減）

輸出量：310万トン（同7.6%減）

2021/22年度の砂糖生産量は、やや減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3039万トン（同2.4%減）とわずかに減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、COVID-19の拡大による都市封鎖や主力製糖工場での機械故障などによる稼働率の低下を受けて収穫作業に遅れが出るなどの影響により、415万トン（同3.0%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、在庫量の減少を背景に、310万トン（同7.6%減）と依然減少傾向が続くと見込まれている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (11月予測)	2021/22 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	379	364	354	350	350	▲1.2%	
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,132	30,666	30,392	▲2.4%	
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,281	4,190	4,152	▲3.0%
	輸入量	18	17	10	15	15	47.5%
	消費量	1,057	1,056	1,036	1,062	1,062	2.5%
	輸出量	3,562	3,449	3,357	3,143	3,103	▲7.6%
	期末在庫量	958	763	662	662	664	0.4%
	期末在庫率	20.7	16.9	15.1	15.7	15.9	0.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9250万トン（同38.8%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1061万トン（同35.1%増）

輸出量：772万トン（同95.4%増）

2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と前年並みで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が前年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、9250万トン（同38.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ生産量の大幅な回復を受けて1061万トン（同35.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。輸出量も、サトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて、772万トン（同95.4%増）と大幅に回復し、前年度比で倍増に迫る状況となることを見込まれる。なお、期末在庫量は430万トンと前年度よりも減少し（同12.8%減）、期末在庫率も輸出量の大幅な回復を受けて38.3%（同27.1ポイント減）と大幅な低下が見込まれる。

環境改善を視野に、農機販売などを促進するオンラインサイトを開設

タイ工業省が11月26日に発表したプレスリリースによると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^{（注1）}は、同省の政策方針を受けて、サトウキビ農家とメーカーや販売会社などの農業機械事業者をつなぐ場として新たにオンラインサイトを開設した。こうした支援により、農家がより便利かつ迅速に、トラクターやハーベスタ、耕うん機などの農機の情報にアクセスできるようになる。また、

OCSBは農業機械事業者に対し、販売と貸出の両面から当サイトへの参加を呼び掛けており、サトウキビ生産における機械化の推進を通じ、生産コストの引き下げとともに、単収の向上を目指すとしている。

この同省による機械化推進の背景には、環境問題を巡る政府としての対応が挙げられる。同国政府は2021年5月、大気汚染物質（PM2.5）の排出削減を目的に、焼き畑によるサトウキビの収穫を2021/22年度（10月～翌9月）で収穫量全体の10%にまで引き下げ、23/24年度には0%とする目標を閣議決定していた（注：20/21年度時点で焼き畑によって収穫されたサトウキビは27%）。また、目標達成に向けた助成も予定されており、21/22年度には、59億バーツ（204億円：1バーツ=3.46円^{（注2）}）を上限に、焼き畑を行わないサトウキビ生産に対して1トン当たり120バーツ（415円）の交付などが行われる。

（注1）OCSBは、工業省内に設置された、サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）の事務局。TCSBは、サトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成されている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の11月末TTS相場。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

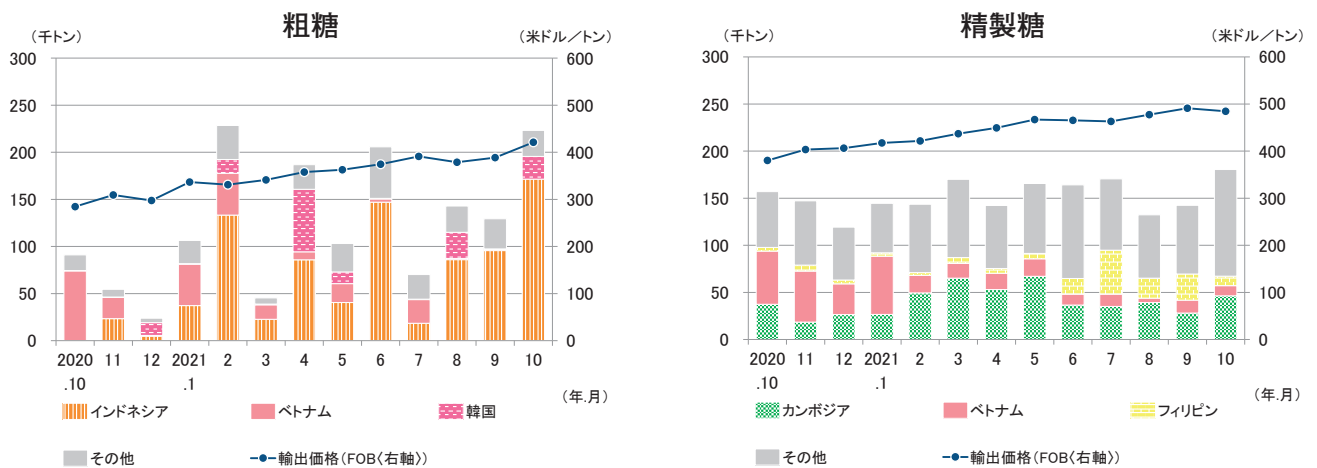
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (11月予測)	2021/22 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%	
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,500	92,500	38.8%	
砂糖	生産量	15,457	8,807	7,854	10,608	10,608	35.1%
	輸入量	4	59	90	3	3	▲96.7%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	3,521	▲2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,596	7,720	95.4%
	期末在庫量	7,899	4,532	4,933	4,296	4,303	▲12.8%
	期末在庫率	57.0	37.0	65.4	38.6	38.3	27.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。